

地域特性

古くからの街並みと公営住宅・マンション・集合住宅が混在している。公共交通機関は、苅田・長居地域には大阪メトロ(御堂筋線)があり、さらに長居地域はJR阪和線もあるため移動に至便である。またあびこ駅前の商店街は活気があり、大型スーパーやコンビニも多く買い物しやすい環境である。一方で単身者向けマンションも多いが、地域から孤立している高齢者が多く、さらに地域活動の担い手が高齢化し後継者発掘が課題である。

4

取り組んだ成果と今後の課題

<成果>

- ①について：情報共有会で得た情報により初期の認知症の段階から介入することで重症化防止できるケースが増えた。また薬局・整骨院から数的には2件と少ないが認知症の疑いがある人の相談が入るようになった。
- ②について：区役所・地域関係者・民生委員・介護保険事業者・医療機関等に参加して頂き、外部スーパーバイザーを招いて課題抽出型ケア会議を開催した。ケア会議を通じて、「どこにつなげていいかわからない人を適切につなげる」地域課題を共有した結果、解決方法に向けて「つなげるためにつながりをつくる(アメンバー方式)」のために「チーム構成(プラットフォーム)をつくる」という具体的解決方法を共有することができた。
- ③について：苅田地域の地域関係者と民生委員の方との顔の見える関係構築により、徐々に「気になる」段階から相談が入るようになり、連携基盤が構築するようになった。

<今後の課題>

①要援護者の方の早期発見・予防的支援体制の地域での仕組みづくりの構築。②複合的世帯の課題に対応できる支援体制の構築に向けて、包括のチーム力向上と関係機関との連携強化。③認知症の人へ介護保険外の社会資源の開発

包括からのひとこと

課題抽出型ケア会議において、「つなげるためにつながりをつくる(アメンバー方式)」のために「チーム構成(プラットフォーム)をつくる」という地域課題の解決方法を共有できたことはとても有効でした。その一方で、要支援者に気づき→つなげるには、当事者自身がつながっていないと気づけず、早期発見に至らない現状(コロナ禍の現状も踏まえ)を改善するために、地域住民と共に検討している状況です。しかし、この時期だからこそ小地域でのネットワークのチーム構成員と共に、より良い地域づくりに向けて挑んでいきたいと考えます。

区役所からのひとこと

小地域での連携を強化することで、新しい相談ルートの開拓など成果が見え始めており心強く感じています。新型コロナウイルス感染症予防で交流規模の拡大が困難な状況の中、数年後に大きな効果を生み出すために、よりきめ細やかに小地域に目を向け活動されています。地域に密接に連携することで、小地域でのネットワークの地域構成員のスキルも向上し、ニーズに沿った丁寧な支援がより一層実現すると思います。今後もよろしくお願いします。



ひとり歩き高齢者声かけ訓練の継続実施

1 地域ケア会議から見えてきた課題

地域での人間関係の希薄化、単身者の増加といった背景から、認知症の進行や悪化により日常生活に支障をきたしている事例が増えている(顕在化してきている)。認知症があっても普段から声をかけあうなど周囲に見守りの意識があれば、日常生活圏域で安心して過ごすことができ、そのような地域づくりが一層必要となってきた。

2 対 象

地域支援関係者(町会長・町会女性部・民生委員・見守りボランティア(ふれあい会員)・常駐支援相談員・老人クラブ)

3 具体的な取り組み内容

【第1日】 令和2年1月22日(水)午前10時～ 11時30分

「声かけ訓練で学べること」(大学准教授による導入講話)

「認知症って?」(認知症サポーター養成講座)

【第2日】 令和2年1月29日(水)午前10時～11時30分

「本人・家族の気持ちを理解しよう」(DVD鑑賞とご家族のお話し)

「警察で保護された時はどうなるの?」(住吉警察署による講話)

【第3日】 令和2年2月5日(水)午前10時～12時

「みんなでひとり歩き高齢者声かけ訓練をやってみよう!」(実践とふりかえり)

- ・2回の事前学習と声かけ訓練という学習プロセスは前年と同様とした。
- ・前年の取り組みを踏まえ、アドバイザー(大学教員)の参加も得て、事前に地域支援者のコアメンバー(町会長、女性部長、常駐支援相談員)と企画の打合せを行った。
- ・地域の小学校の協力を得て、全日程で空き教室を提供頂くことができた。
- ・2回目となることから、訓練当日は前回の決められたコースを歩く形式から所定のエリア内を自由に歩いて良い形式にしたり、高齢者役が過度な変装をしないようにしたりしてステップアップした内容とした。

地域特性

地域の南側には市営住宅が、大和川沿いには古くからのアパートがあり、管理人を中心としたコミュニティが作られている。中層マンションもあるが、多くは古くからの戸建住宅が多い。ひとり暮らし高齢者への見守り訪問は区内でいち早く取り組まれており、週2回の配食活動も行われている。隣区との境目に阪堺電車が通っており、踏切が多い。地域内には商店街やコンビニもあるが、踏切を渡って隣区へ買い物に行く人も多い。

4

取り組んだ成果と今後の課題

【成果】

- ・参加者は延べ104人(1日目39名、2日目37名、3日目28名)。
- ・初参加者が約半数だったことは広がりという面で収穫であった。
- ・介護保険事業者、商店街に加え、地域のクリニックや薬局等にも事前周知が行えたほか、3回とも小学校を会場に借りることができ、参加者の学習面の動機づけが維持できた。
- ・訓練を通じて、認知症の理解が深まったり意識が変わったり感じたかを問うたところ、「とても感じる」(38%)「やや感じる」(50%)と9割近い参加者の意識変容を引き起こすことができた。
- ・具体的には「迷っておられる方に注意をして目を向ける心が養われた」といった感想のほか「認知症の自分の家族への声かけの仕方を考え直す機会にもなった」といった当事者家族の感想も聞くことができた。
- ・高齢者役は前はすべて職員が担ったが、今回は住民にも協力を得た。若年性認知症の人もいる前提で訓練した。

【課題】

- ・介護保険事業者や商店街関係者等にも参加いただきたく事前周知を行ったが、実際の参加には至らなかった。時期、内容、動機づけを高める工夫が必要。
- ・今回訓練当日が後から行事と重なってしまった関係で訓練参加者が減ってしまい残念だった。訓練当日だけの参加でも基本的なことが学べたり体験できたりする気軽さを考慮した柔軟な運営も検討したい。
- ・小学校を会場に借りるうえで、学校の負担にならない範囲で子どもとも一緒に学べる機会を考えられないか。



包括からのひとこと

令和2年度も訓練実施を計画しているが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて見直しを余儀なくされています。しかし住民の方々と相談しながら、規模や運営方法を工夫して継続実施し、認知症の当事者やご家族の地域での暮らしに思いを馳せ、住民同士温かい声を掛け合えるまちづくりに向けて取り組みを重ねたいと思います。

区役所からのひとこと

支援者のスキルアップを目指した訓練として対象を専門職のみならず地域役員と設定しており、支援者の底上げが実現されています。普段の生活の中で、支援できる人が増えることは、まさに安心して生活できる重要な要素です。新型コロナウイルス感染症に配慮しつつ、地域との強固な関係性を活かし、力を合わせて安全で安心なまちづくりの基盤をさらに強化していただくことは区役所としても頼もしい限りです。今後ともよろしくお願いします。



つながる・みまもる・きにかける運動

1

地域ケア会議から見えてきた課題

1. ひとり暮らし高齢者の相談が多い
2. 相談のほとんどに認知症が見られる
3. 認知症のため成年後見制度の活用が必要な方がいる
4. 認知症の人は介護サービス以外に地域の見守りが必要である
5. 男性介護者の中には、介護や認知症の対応をひとりで抱え込んでいる方もいる

2

対 象

今宮地域の認知症またはその疑いがある高齢者

3

具体的な取組み内容

1. 認知症サポーター養成講座や、認知症予防・見守りのための勉強会を開催する。
2. 喫茶『よってこ』は各地域を移動型で開催していたが、今宮地域において定例開催し、認知症の相談や各種社会資源の情報提供の場とする。
3. これまで周知活動が不足していた商店やコンビニ、銭湯等に対し認知症高齢者の早期発見・見守りについての協力依頼を行う。



地域特性

にしなりオレンジチームの実績にもあるように、今宮地域において認知症またはその疑いのある高齢者の相談が増加している。高齢者のうち介護認定を受けていない割合も高く、地域において高齢者の些細な変化や見守り、相談の場が必要である。

4

取り組んだ成果と今後の課題

1. 地域関係者の各種会合に参加し、認知症予防や見守りのための講座や勉強会を開催し、理解を深めることができた。具体的にはネットワーク委員向け勉強会、民生委員向け認知症サポーター養成講座を開催することができた。
2. 今宮地域において喫茶『よってこ』を定例開催し、地域住民の交流の場・相談の場・各種情報発信の場とすることができた。参加者は少ないが、別の高齢者を誘って参加いただくなど、徐々に広がりができてきた。
3. 商店やコンビニ、銭湯等に対する認知症高齢者の早期発見・見守りについての協力依頼は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり取り組みは進まなかった。唯一、郵便局への周知ができ、郵便局員向け認知症サポーター養成講座の依頼を頂くことができた。

包括からのひとこと

令和元年12月頃から新型コロナウイルス感染症が拡がり、各種行事やイベント、周知活動が中止となりました。何より、高齢者の心身機能の低下やつながりが途切れないよう、「集まれなくてもつながる方法」等を検討しながら、活動を進めていきたいです。

区役所からのひとこと

認知症高齢者の相談件数が多い今宮地区で開催している喫茶『よってこ』では、いきいき百歳体操で使用する機器の使用方法的可視化や認知症関連の書物を置き情報が得やすくするなど、工夫が見られました。コロナ禍での活動が難しい状況下にあります。周知が行き届いていないスーパー・銭湯等新たな関係機関と連携体制がとれる「つ・み・き運動」を応援しています。



高齢者の健康への自助意識を高めるために ～ゆめ健活プロジェクト第一段「健康測定&栄養相談会」実施～

1 地域ケア会議から見えてきた課題

都市型高齢者(ひとり暮らし・地域と繋がらない)が増加し、運動機能の低下と共に外出機会も減少、閉じこもりがちになる。その結果、運動機能、認知機能が低下し、要介護高齢者になるリスクが高くなる。高齢者が健康であることを自ら意識してもらうためにセルフケアにつながる取り組みが重要である。要支援・要介護になってからの卒業は難しく、人生100年時代、健康寿命を延ばす地域での取り組みが必要である。

2 対 象

地域住民

3 具体的な取り組み内容

<取り組みの内容>

- ・「令和元年度健康測定&栄養相談会」開催
- ・実施期間：令和元年5月～令和2年2月 毎月第2金曜日10:00～13:00
- ・場所：ウエルシア薬局都島友洲店、毛馬店地域開放スペース
- ・開催：奇数月→都島友洲店、偶数月→毛馬店
- ・開催回数：10回
- ・活動内容：血圧、体組成、骨強度、握力、血管年齢、ヘモグロビン測定
- ・管理栄養士の個別栄養指導
- ・包括、ブランチ、都島オレンジチームの周知活動及び相談会実施
- ・自宅で1人で出来るアクティビティの紹介
- ・地域の社会資源や通いの場に参加したスタンプラリー健康通帳を作成し地域にどんどん出かけてもらえうような工夫作りを行った。



地域特性

北部圏域は都島区内の集合住宅(公営・民間)の8割を占める。転入や転出も多く、町会加入も年々減少、集合住宅は居住者の顔が見えにくく、近隣と関わるのが少ないため、都市型高齢者が孤立しがちになっている。

4 取り組んだ成果と今後の課題

<取り組んだ成果>

- ・開催回数10回→参加人数：延べ248名(平均24.8名)
- ・参加者の8割が65歳以上高齢者が占めるが、2割は男性が通い、65歳未満も22%存在。リピーター率は友渕店51%、毛馬店62%存在、測定数値改善を目指し日常生活を送る参加者が多数続出、セルフケアにつながる取り組みとして定着した。
- ・介護サービス利用は全体の1割以下、かかりつけ医の有りは8割以上、毎回健活手帳を活用して自身のデータを管理されており、健康意識の高さは介護サービスを利用しなくてすむ健康寿命の延伸につながっている。

<今後の課題>

- ・栄養面や身体機能の改善や助言を受けれる公的サービスが介護サービス以外になく自己流管理に陥るため、心身状態の悪化を招きやすく、栄養面や筋力低下に着目した取り組みの工夫が必要である。

包括からのひとこと

日々の小さな心身不調の積み重ねがじわじわと「要介護」を招いてしまいます。高齢者の健康管理は個人の問題ではなく、もはや地域の課題となっています。住み慣れた地域で暮らし続けるキーワードは健康寿命です。ゆめ健活プロジェクトは高齢者が健康でいなくなる取り組みを進めていきます。

区役所からのひとこと

介護予防や健康寿命の延伸に向け、まず自身の健康に関心を持ってもらおうという取り組みは、シンプルながらもとても大事な取り組みと考えています。都市型という地域特性を的確に把握した上での取り組みであり、孤立予防も念頭に置き、地域の様々な社会資源や通いの場への参加促進も図っておられ、地域住民の方からの満足度も高い活動を展開されています。また、活動を通して把握したニーズや課題を、次年度に十分活かしながら取り組まれており、今後とも、地域の高齢者の方が、少しでも長く住み慣れた地域で安心して生活していける取り組みを継続していただくことを期待しています。



西淀川区地域包括支援センター
(社会福祉法人大阪市西淀川区社会福祉協議会)

フレイルへの気づきから、 自立支援・介護予防に向けた取り組みへ

1 地域ケア会議から見えてきた課題

1. 住民も支援者も、フレイル(虚弱)についての理解を深める必要がある。
2. 「老い・衰え」を感じたときから、今後の暮らしへの心構えや備えが必要である。

2 対 象

高齢者とその家族、地域住民、ケアマネジャー

3 具体的な取り組み内容

1. フレイル・プレフレイルへの理解を深める

- ①高齢者やその家族、ケアマネジャーからの相談時に、「イレブン・チェック」「J-CHS基準」で聴き取りし結果を伝えた。
- ②地域包括支援センターだより(NNニュースwithTY)、区社協だより、地域包括支援センターカード等で周知・啓発した。
- ③生活支援コーディネーターと協働し、「西淀川区^④に～よん参考書～コミュニティ情報編～」を作成し、フレイルに関する記事を掲載した。
- ④ケアマネジャーに対し、自立支援につながる介護予防ケアマネジメント推進のための研修会を開催した。
- ⑤地域の食事サービス・町会にて「フレイルミニ講座」を開催、生涯学習関連施設連絡会にて「フレイルや高齢者の課題」について伝えた。

2. 介護予防ケアプランへのセルフケア、インフォーマルサービスの位置づけをケアマネジャーに促す
初回アセスメント時に「興味関心チェックシート」「今後の生活行為聴き取り票」を活用し、生活支援コーディネーターへ助言を求めた。インフォーマルサービスにつながった場合は、ケアマネジャーに介護予防ケアプランへの位置づけを促した。平成29年度と比較すると介護予防ケアプランへ『具体的かつ実現可能な目標設定』について、運動・散歩[+7.0%]、家事等[+7.0%]、趣味・社会活動[+8.0%]、健康管理[+2.0%]、増加した。

地域特性

担当圏域の高齢化率は25.2%で、前期高齢者と後期高齢者の割合の差は0.4%で前期高齢者がわずかに多い状況である。地域別でみると、高齢化率が低い地域は18.5%、高い地域は30.6%で12.1%の差がある。

工業地区として発展してきたが、企業・工場の撤退・廃業の跡地に、マンションや戸建て住宅が増加した。ＪＲ御幣島駅、ＪＲ塚本駅、阪神千船駅があり、アクセスの良さから、若い世代が増えた地域がある。

公害対策・環境改善を目的に整備が進んだ大野川緑陰道路が、住民の運動の場、社交の場となっている。緑陰道路の近くには、公共施設が多くある。

4 取り組んだ成果と今後の課題

【成果】

- ①高齢者やその家族には相談・講座で、ケアマネジャーには相談や研修等で、フレイルを踏まえ、今後の暮らしに対する聴き取りをする中で、より丁寧にアセスメントができたことで、フレイルへの理解を促すことができた。
- ②相談時や初回アセスメント時に、興味関心チェックシートを活用し丁寧にアセスメントしたことで、介護予防ケアプランにセルフケア・インフォーマルサービスの位置づけが増えた。また、生活支援コーディネーターに助言を求めたことで、新たな身近な居場所づくり(園芸・農園の会、いきいき百歳体操等)ができた。

【今後の課題】

自立支援型ケアマネジメント検討会議において、運動(筋力低下等)や社会参加(閉じこもり等)への気づきはあるが、口腔・栄養への気づきが少ない傾向がある。そのため、包括職員及びケアマネジャーは、食に関する知識を習得し、より丁寧にアセスメントしていく必要がある。知識・アセスメント力が向上すれば、高齢者やその家族に対し、食への助言や必要なサービス等につなぐことができ、フレイル予防・介護予防につながる。次年度、フレイル予防・介護予防につながる「食への取り組み」を手掛ける必要がある。

包括からのひとこと

高齢者やその家族、ケアマネジャーに「フレイル」について聴き取り、伝え続けることで、フレイルへの意識が浸透してきました。ケアマネジャーとともに、興味・関心チェックシートで聴き取ることで、趣味・特技、若い頃の活動等も知る機会となり、日常生活の困り事だけでなく、高齢者が望む暮らしについて聴けるようになりました。今後も、介護予防・自立支援を推進していく上ではケアマネジャーが要となるため、取り組みを続けていきます。

区役所からのひとこと

高齢者がいきいき・はつらつとした暮らしを続けていくために、フレイルにスポットをあてて、「イレブンチェック」や「J-CHS基準」といったツールを活用しながら高齢者やその家族、ケアマネジャーに具体的にイメージしてフレイル予防に向けた行動変容につながるよう相談の場面や研修会等で積極的に取り組みを実施しています。これらの活動をとおしてみえてきた課題についても次年度以降の活動に活かしていただけると期待してます。



2025年問題における地域対策

1

地域ケア会議から見えてきた課題

介護保険認定の非該当者や、認定を受けた以降は介護保険サービスの利用が生きがいとなり介護保険からの卒業が難しい高齢者が急増する一方で、複合的な問題が加わる事で、より複雑化した老々介護や認知介護の存在も増え始めたことから、対応が出来る支援者に限りが見られている。

高齢化率が全国平均を軽く上回っているにも関わらず、介護予防体操教室や地域イベントなどの参加者が同じ顔ぶれに限定される点や、男女の比率に偏りが見られている。

2

対 象

ある程度の運動が可能な65歳以上の高齢者

- ・介護保険サービスを利用していない方
- ・医師より特に運動を止められていない方
- ・コロナ禍で運動不足な方
- ・認知症予防に関心がある方

3

具体的な取組み内容

①『新・介護予防事業の試みについてのお願い』と称し支援者間会議を7月に開催、16事業所や企業団体の参加に恵まれた。

②試験的開講モニターへの講師の選出およびリハーサルを9月末に開催。

③大学実習と期間が重なった事から、学生での目線での感想も確認。

④今回の試験デザインをフェーズ1とし、評価は主に3項目。

・モニター人数：最大20名(教材および新型コロナウイルス感染症予防対策の2観点から)

・モニター期間：10/20～11/10 2週間ごとに1回開催の合計3回

・実施内容：体験型の運動を体験

※1回につき3つのカリキュラムおよびHRの計4コマとし終了後に簡単な無記名式アンケートの記載を参加者と支援者両者共に依頼

※※最終日は座談会および実習生のインタビュー形式としモニター参加者から生の感想を聞く機会を設けた



地域特性

周囲を海に囲まれた人工島であり、住宅は一戸建てが存在しないマンションおよび団地群(市営住宅・UR住宅・分譲マンション)。エレベーターが停止しない階層を設けた「スキップフロア型」のマンションがある。

地域外との交流に消極的な雰囲気もあり、そのため古参と新参間の関係構築、土地所有者の特性など高齢者個人だけでは解決が困難な問題を抱えている地域でもある。

4 取り組んだ成果と今後の課題

介護が必要とならないように予防する事を目的とした大人のための学校を略して、『介護予防大学』と表現し、まずは支援者を募った。

南港の特性に理解がある企業や日頃から南港にて従事をしている事業所を中心に声掛けを行い、現在16の事業所や団体より、取り組みに対しての賛同や支援および協力を得ることが出来、現在もなお増加中である。

支援者間での連携や新たな試みに刺激を受けたことで相乗・波及効果による現象も見られている。

参加者にとっては、全く初めての経験であるカリキュラムであることに加えてコロナ禍であることが追い風ともなり、全参加者から好感を得ている。

今後の課題としては、段階的による本開講(フェーズ2.3)を行い、長期開催による心身ともに与える効果などを視える化・データ化する事、参加者のモチベーションの維持向上、および卒業後の進路選択先の構築や支援者のさらなる増員が考えられる。

新たな課題としては、コロナ禍において感染予防対策を念頭に開催する必要となったため、対応が可能となる会場を借りる維持費が問題になっている。

また、比較的高額な会場の割にはハード面が不足しており、追加で費用が発生することも多く、現実化するための壁は多い。

包括からのひとこと

自然が多く、車通りの少ない土地であり、運動できる環境はあるものの、運動のきっかけが持てずに生活が続ける方に対して、運動の習慣を身につけ、介護予防の意識を高めていただけるよう取り組みを進めております。取り組みを進める中で、参加者の皆さんの笑顔が多く見られ「楽しかった」「もっとやりたい」などの声が聞かれています。実際の効果の検証、分析も行いながら、今後も取り組みを進めてまいります。

区役所からのひとこと

高齢者の増加に伴い、介護予防の意識づけは今後もますます重要になってくる中で、「介護予防大学」の取り組みはとても関心の高い内容です。その取り組みにおいて支援者の協力が増加しているという点は、日頃の連携や関係性の成果と思われます。今後は、効果の検証、分析も行いながら、講座終了後の参加者のモチベーションの維持や、参加できない方々へのアプローチ等の検討も行うなど、地域の方にとって、よりよいものになるよう、ひき続きよろしくお願いします。

住吉区北地域包括支援センター
(社会福祉法人ライフサポート協会)

HPはこちら



大領地域住民の方々が集える健康サロン ～心とカラダを動かそう「ふふふの会」～

1

地域ケア会議から見えてきた課題

- ① 単身、家族や地域と疎遠など地域のネットワークから孤立しやすい人の早期発見早期対応が難しい。
- ② 制度があるが使いにくい、わかりにくい。
- ③ 認知症の方が地域で暮らすために、介護者や地域住民の認知症に対する理解や対応、認知症予防活動の充実などが必要。

2

対 象

自分で会場まで来ることができる地域住民

3

具体的な取組み内容

令和元年度は奇数月の第三金曜日に定例開催とし、各団体へ今年度の目標を意識した内容でミニ講座を依頼。実施運営に当たっては、地域の役員さんやボランティアさん、包括で分担して行った。

5月 「カラダを動かそう」 ～リズム体操～ 一般財団法人健康サポート協会

7月 「脳トレ！」 ～脳ストレッチ～ 脳ばんざーい

9月 「カラダチェック」 ～体のことを知ろう～ 南大阪医療生協

11月 「カラダを動かそう」 ～自分の足でしっかりと～ ポラリスデイサービス

1月 「カラダを動かそう！」 ～心とカラダをリフレッシュ～ NPO法人ホワイトネット

3月 「知ろう！学ぼう！認知症！」 るるるオレンジチーム(新型コロナウイルス感染症で中止)



地域特性

会場があるエリアは、地域活動協議会の圏域と小学校区が同一ではない。また、田んぼや畑を住宅地に変更した場所も多く、転入者も多いため、居住歴が浅い方も多く住んでおられる。

老人会があり、定期的に活動されているが、既存の集いの場に参加しない方もおられる。

4 取り組んだ成果と今後の課題

<取り組んだ成果>

今年度の参加者平均10名。多い月は14名、少ない月は4名と差がある。運動や健康チェック系の内容は人気があり参加者が多い。参加者のうち、約5名がある程度定例で参加されるようになり、顔なじみの関係ができ声をかけあえるようになった。アンケートより、参加された方の興味・関心は「運動・体操について」「食事・栄養について」に関する内容が多かった。

<今後の課題>

前年度より参加者が減少傾向にある。会場の近所の方の参加が少ない。新規の参加者が少なく、認知度や周知度の低さが想像され、開催日時や周知方法など工夫が必要である。

以上の課題より、町会長、老人会会長へ相談し、町会の班回覧、老人会の集まりなど周知の機会を増やしていく。また、開催日時については地域や老人会の行事、いきいきふれんどサロン、いきいき百歳体操などの日程や、近隣の医療機関の診療時間など考慮しながら、決定していくこととなる。

包括からのひとこと

新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のため、一時休止しておりましたが、休止中に「新型コロナウイルス感染症による外出自粛に伴う現状調査」を過去の参加者へ実施し、安否の確認、「ふふふの会」が再開した場合の参加の意向や、不安、新たなニーズ等の調査を行い、7月から無事再開することができました。今後も何もかもが「新型コロナウイルス感染症でできない」ではなく、コロナ禍でもできる形を模索しながら、「ふふふの会」を継続していきたいと思います。

区役所からのひとこと

多彩な企画が新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、地域ニーズを的確に把握して細やかな配慮をしつつ教室の再開を行うなど、常にニーズと情勢に沿い丁寧に対応されるため地域の信頼も厚いです。転入者が多い地域ではサービスを知らず、新しい関係性を築くことに不安を抱いている方々が安心して生活できるように、引き続き出会いの契機を豊富に用意していただけるとありがたいです。今後もよろしくお願いします。